

教育と文化

No.132

令和5年7月



無我苑 瞑想回廊



無我苑 研修道場「安吾館」

我々の生涯は、
周囲の恩恵と
各自の性能とによって、
段々真の幸福に近づいて
行く後路である。

伊藤
証信



無我苑 日本庭園

Contents

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 2 巻頭言 | 10 令和4年度最優秀論文 |
| 4 三河の文化を訪ねて | 12 刊行物の活用紹介 |
| 6 特集 変わり始めた学校 | 13 令和5年度学校教育ボランティア助成グループ一覧 |
| 8 教育随想 | 14 令和5年度研究発表校一覧 |
| 9 教室の窓辺 | 16 文振だより |



巻頭言

伝統を引き継ぎ 時代の要請に応える

公益財団法人愛知教育文化振興会理事長 平井 敦

このたび、保科克之先生の後任として、公益財団法人愛知教育文化振興会の理事長に就任しました。長い歴史と輝かしい伝統をもつ本法人理事長の重責を感じ、身の引き締まる思いです。

さて、本法人は、昭和32年の設立以来、三河の教育文化の向上・発展に寄与することを願い活動を進めてまいりました。その間、様々な教育改革の動きがありましたが、「はじめに子どもありき」という三河教育の本質を継承しつつ、その都度変化に対応してまいりました。

現在も、良質で使い勝手がよく、安価な刊行物をめざし、毎年改訂を重ねています。さらに、現場や時代の要請に応えるべく、ICT化の推進やデジタル採点支援システムの導入に向けて準備を進めています。

ここで、時代の要請に応えるという視点から私の勤務する中学校の取組について考えてみたいと思います。

私の勤務する中学校は、昨年度、学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティ・スクールとしてスタートを切りました。

なぜ、コミュニティ・スクールなのか？

「ありがとう」「君たちのおかげで…」子どもたちが、そんな言葉を地域の方々からかけていただけの機会が増え、自己肯定感が高まることを期待して立ち上げました。

地域社会のつながりや支え合いの希薄化により、豊かな人間関係づくりを学ぶ場が減少しています。新型コロナウイルス感染症は、こうした傾向に一層拍車をかけました。

たちが、「地域の子どもは、学校を含めた地域で育てる」という思いの強い大人へと成長することを期待しながら、少しずつ活動を進めていきます。こうしたことが、時代の要請に応える一つの具体と考えています。

未来を拓き始めた子どもたち

学校と地域の教育力が、それぞれの強みを生かして子どもの健やかな成長を支えるという関係が、回復している手応えを感じます。

今後は、5つの小学校区と連携し、防災訓練や市民館祭りの支援などが期待されています。

地域の大人と関わり、自信を深めた子どもたちは、新年度がスタートした4月、自らの力で、部活動のない木曜日の授業後の時間を利用して、新入生への説明会・交流会を開催しました。60名ほどの一年生が参加していました。この子らが、「たはランティア」という伝統を引き継ぎ、その活動を通して、地域や人とのつながるよう、また、その活動が全校に広がるよう導いてまいります。

本法人設立以来、65年の歴史を振り返ってみますと、学習指導要領の改訂により、時には、翻弄されるほどの激動の時代に身を置いたこともありました。しかし、その都度、多くの教育関係団体や教育関係者と手を携えて、学校現場の声を道標に、子どもたちや教職員の姿を視界にとらえ、その要請に応じてまいりました。そうした営みを継ぎつつ、常に新たな道（方法）を模索しながら邁進する覚悟です。

また、これまでの学校教育は、地域や家庭の信頼や期待に応えようと努力し、仕事の範疇を広げ、大きな成果を上げてきました。その一方で、子どもを囲い込み、教育は学校がするものという風潮を作り上げてきた面も否めません。その結果、地域から子どもが消え、子どもと地域とのつながりが希薄になったことはもとより、地域の大人同士のつながりまでも希薄にしてしまったように感じます。それは、私の住む田原地区でも例外ではありません。こうした課題を解決するための方策として考えたのが、コミュニティ・スクールです。

「たはランティア」の活動

私の勤務校には「たはランティア」というボランティアクラブがあります。平成27年に立ち上げられた本クラブは、部活動とは一線を画し、地域のために活動したいという思いをもつ子どもたちが、年間を通して、また、不定期に集まり、様々な視点から地域と連携した活動を展開しています。現在、百名ほどが在籍する本クラブは、十年近い活動を通して、本校の新たな「伝統」となりつつあります。

街を賑やかにしたいと活動している市民団体と協力し、桃の節句や端午の節句、七夕等に合わせ、おひなさまなどの飾りを作成しました。作成した飾りは市内の商店に飾られ、季節感を演出するとともに、飾りの周りに人が集まり、会話が弾んでいました。

市の博物館が「海から広がる渥美半島展」を開催した際、水槽を展示するだけでなく、自分たちが捕まえた海の生き物に直に触れられるタッチ



新入生への説明会・交流会



地域の方を交えて熟議する子どもたち



タッチプールの様子



子ども食堂のスタッフとして活動する子どもたち



無我苑
ホームページ



碧南市哲学たいけん村「無我苑」



「安吾館」での演奏会

「哲学たいけん村無我苑」は、全国でも珍しい「哲学」をテーマにした公共施設です。

「無我愛」を説いた哲学者・伊藤証信の哲学研鑽の場「無我苑」（以下「旧無我苑」とする）を碧南市が譲り受けたことが契機となり、「心の健康と精神文化の醸成の場」を基本テーマに、哲学的な体験ができる、ストレス社会に対応する施設として「哲学たいけん村無我苑」（以下「無我苑」とする）が、平成4年6月に開村しました。

郷土ゆかりの哲学者 伊藤証信

伊藤証信は、明治から昭和初期にかけて「無我愛」を提唱し、仏教に限らず、キリスト教、西洋哲学など幅広い研究と思索を続けた哲学者です。関東大震災後、西端地区の青年で結成され

いています。思わず普段の喧騒を忘れてしまいそうな、心安らぐ贅沢な時間を過ごすことができます。

市民茶室「湊々庵」

碧南市が海に親しみ深いことから、波の音をイメージして、「湊々庵」と名付けられた茶室があります。湊々庵の名に因んだ欄間・唐紙の広間、草庵風の茶室の小間などがあり、美しい日本庭園に囲まれながら、お茶を楽しむことができます。

また、茶室の外待合である「二重露地（露地囲い）」は、古田織部の弟子の上田宗箇が試みたといわれる全国的にも珍しいもので、外露地と内露地に分かれています。外露地を高い塀で囲い、



市民茶室「湊々庵」



瞑想の丘



哲学の小径

た「竜灯団」に招かれ、東京から西端に移り住み、地元青年にカントの「純粹理性批判」を翻訳して教授したり、ドイツ語などを教えたりして、精神主義に基づく思想的影響を与えました。当時、西端で書かれた「哲学入門」や「無我愛の哲学」は、証信の著作物の中でも特に高い評価を受けました。

やさしい時が流れる空間「無我苑」

「無我苑」は、名称から考えると難しく感じますが、決して哲学を勉強するところでも宗教的な施設でもありません。日頃と違った環境に身を置き、様々な体験をすることで、何かを感じてもらったための施設です。何を感じるかは、訪れた人の、その時々心のありようによっても違います。来苑者アンケートには、「何年かぶりに一人で

外界と隔絶された空間を形成し、これから始まる茶会に臨むための心の準備を整える聖なる空間です。この外露地を体験することが、茶の湯を通じての哲学的体験となることを企図しています。

「瞑想の丘」から「瞑想回廊」へ

コンクリートと芝生に囲まれ、彫刻家の清野祥一氏の作品が置かれている「瞑想の丘」を登っていくと、「瞑想回廊」へとつながっていきます。この施設は、住宅街の一角に建つ近代的な建物で、施設内には、坂口安吾やニーチェなどの哲学的な言葉が記されています。そのほかにも、展示ギャラリーの様々な展示やお香の香りで心静かな

心静かに開放された気分です。とても楽になりました。」や「いろいろな心に悩むことが多い時、リラックスできる空間が気に入りました。」という感想が残されています。楽しい時、落ち込んだ時など、それぞれの状況でいろいろなことを考え、思いを馳せる、そんな場所が「無我苑」なのです。

苑内には、研修道場「安吾館」、市民茶室「湊々庵」、瞑想回廊などがあります。これらの施設は、「哲学たいけん村無我苑整備事業」の基本テーマ「心の健康と精神文化の醸成の場」に基づき、検討・整備されました。

研修道場「安吾館」

伊藤証信が地域の人々のために開いた研修道場を新たに蘇らせたもので、「無我苑」名誉村長の梅原猛先生に

時間を過ごせるメデイーションルーム（瞑想室）などもあり、日常の暮らしとは違った環境に身を置いて、自らを見つめ直すことができる施設となっています。また、前庭の池の底には、「旧無我苑」の屋根瓦が敷いてあり、とても不思議な雰囲気となっています。

「哲学の小径」

「無我苑」と県下最大級の自然湖沼「油ヶ淵」の湖畔にある「花しょうぶ園」、蓮如上人ゆかりの寺「応仁寺」を結ぶ総延長640mの散歩道です。歩きながら、哲学・文化・歴史・自然に触れることができ、「歩きたくなる散歩道」として整備されています。小径の各所には、哲学的な言葉や俳句を

よって「安吾館」と名付けられました。「無我苑」のある場所が坂口町なので、昭和時代の小説家、坂口安吾から引用したと言われています。

施設は、木造数寄屋作りで、和室や鞘の間、入側、水屋、厨房などがあります。和室には炉が切っており、大寄せの茶会ができます。「無我苑」の事業として哲学講座等の勉強会や貸館としてお茶の稽古、演奏会などの活動の場として利用されています。

「立礼茶席」

美しい芝生の庭と、奥には竹林が見える「立礼茶席」は、椅子に座り、日本庭園を眺めながら、気軽に抹茶を楽しむことができる施設です。来苑者からは、「茶席での対応が素晴らしい、楽しいひと時でした。」という声が届

揭示するサイン等が置かれています。

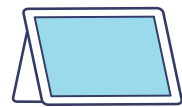
おわりに

毎日あわただしく過ぎていく時間。「ふと立ち止まり、自分を見つめ直してみたい。」そんな衝動にかられたことはありませんか。心穏やかに自分と向き合い、振り返ることが「たいけん」できる、そんな場所が碧南市の「無我苑」です。

日常の喧騒から逃れて、「無我苑」でちょっと気分転換してみてください。きっと心の安らぎを感じ、明日への活力になると思います。

善とは一言にていえば、
人格の実現である

西田幾太郎



田原市立田原中部小学校

1年『ひらがな・カタカナ』

「つまんで輪っか、中指まくら」
歌うように発する教師の言葉を復唱しながら、うれしそうに鉛筆の持ち方を確認する子どもたち。正しい鉛筆の持ち方を教える。それだけのことで、文字を初めて習う子どもの指導では、上述のような教師の言葉がけなど、さまざまな工夫や配慮が必要となる。そうした1年書写指導に役立つのが、『ひらがな・カタカナ』に付属する動画コンテンツである。授業の一場面を紹介する。



QRコードの読み込み

動画教材を最初に利用するのは、ひらがな「あ」の指導場面である。冊子に掲載されたQRコードで手軽にデータを読み込むことができる。子どもにとっては初めてのQRコード使用なので、まずは教師がタブレットの操作画面を大型モニターに映しながら説明する。

本校では、デジタ

ル機器「クロームキャスト」の利用により、こうした操作を手軽にできるシステムが構築されており、教員に好評である。アプリによりQRコードを読み込むと、動画再生が始まる。

「三画目は、止めて、止めて、大きく回して、すーっとはらいましょう。」

「あ」の文字で難しいのは、「折れ」「はらい」が入る三画目であるが、そのことも音声によりわかりやすく説明されている。さらに教師は、ポイントとなる箇所動画を止めながら、説明を補っていった。

興味津々で動画を視聴する子、ゆっくり筆を運びながら慎重に文字を書く子、そうした姿から動画教材の効用と必要性を改めて感じる授業となった。



「すーっと書くんだよ」

(校長 彦坂登一朗)

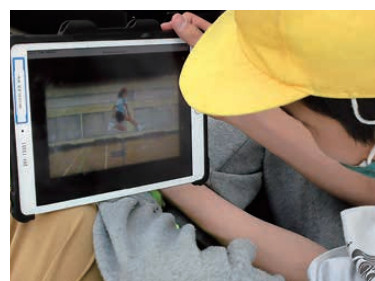


安城市立桜井小学校

6年『たのしい体育』

体育科の授業を通して、すべての子どもたちが運動の楽しさや喜びを味わいながら、体力の向上を実現できるよう、『たのしい体育』のデジタル資料を活用した授業を実践している。

6年では、「自分に合ったコースでハードルをリズムミカルに走り越えよう」を学習課題とし、陸上運動「ハードル走」の授業を行った。個々の走力に差があるため、いろいろなインターバルのコースを用意することで、自分の走力にあったコースを自分で選択して運動できるように工夫した。その際、子どもたちは、マイタブレットを活用し、自分が必要だと感じたタイミングで、『たのしい体育』に掲載されているQRコードを読み取り、手本となるリズムミカルな



動画で動きを確認する

ハードリングを動画で確認した。これにより、「できるだけ遠くから踏み切っているね」「ハードルの間は3歩で走っているよ」など、子ど

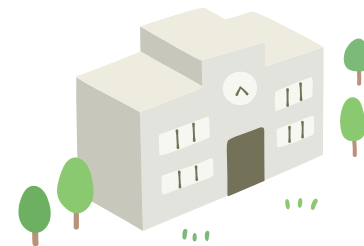
もたち自ら様々なポイントを見つけることができた。

授業の振り返りでは、「QRコードを使うことで、自分が見たいときに動画確認できるので、自分のペースで学べた」「動画は運動のポイントが分かりやすくて真似しやすかった」「前よりもタイムが速くなって嬉しかった。次もいろんなメンバーと競争したい」など、『たのしい体育』のデジタル資料に対する肯定的な意見が多く見られ、子どもたちの満足度が高まったと考えられる。QRコードによって、自分が必要な時、即時に必要なとしている動画を確認できるなど、個別最適な学びの実現が、学びを深める一助となっている。

(教諭 杉山翔一)



自分に合ったコースを選び、ハードル走に取り組む



- デジタルを活用した授業
- 「デジタル採点支援システム」を活用した採点・指導

特集

変わり始めた学校



「GIGAスクール構想」に新型コロナウイルス感染症が拍車をかける形で、学校現場に押し寄せたデジタル化の波。

その環境整備を目的とするのではなく、手段として、子どもたちの学びの構築をよりよく進める学校があります。



西尾市立幡豆中学校

「デジタル採点支援システム」

「デジタル採点支援システム」実証研究校に選ばれ、本システムが自作プリントや定期テストなどでも活用できると知り、早速、取り組みました。最初は、インストールや生徒情報の初期登録など、初めての作業ばかりで思うように進みませんでした。私の担当する数学科は、他教科と比べて採点に時間がかからず、設定などに費やした時間を考えると、有効性を感じないまま採点に入りました。

しかし、実際にやってみると、予想以上に時間が短縮されたことに気づくとともに、同一画面上で同時に採点できるので、採点基準のブレもなくなりました。採点を終わると、観点別合計やテスト合計が答案用紙に自動で記入され、さらに、時間が短縮されました。

また、これまで返却時に全問題を解説していましたが、本システムで



広がる活用の輪

は問題ごとに正解・不正解の人数が表示されるので、苦手な部分を重点的に解説することができました。

併せて、本校ではマークシート方式でテストを実施する教科がいくつかあり、当該教科の教員から「私の教科でも使ってみたい」「マークシートだけではなく、記述問題もやらせたいから、やり方を教えてほしい」という声も寄せられ、校内で広がり始めています。

(教諭 手嶋智宏)

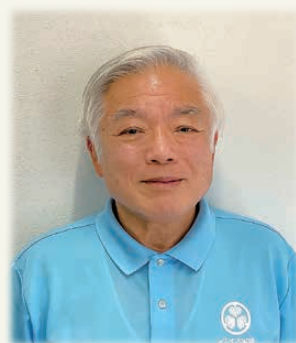
「デジタル採点支援システム」の活用によって、生徒たちの習熟の度合いを中心とした学級の傾向を効率的に知り、その単元の補充学習だけでなく、以後の指導に生かすことを期待している。また、校内での活用の輪を広げ、それぞれの教科の視点から、多面的に生徒の学びにアプローチすることで、バランスのとれた生徒の育成を期待したい。そうすることにより、学校全体で学力を伸ばす柱をより骨太にできていると考えている。

(校長 齋藤英二)

大河ドラマ館と私

「どうする家康」岡崎 大河ドラマ館 館長

唐澤 信幸



Profile からさわ のぶゆき

1951年 長野県東御市生まれ
1975年～ 近畿日本ツーリスト 勤務
2008年～ 箱根高原ホテル勤務
2015年～ 「真田丸」大河ドラマ 館勤務
2022年～ 「どうする家康」岡崎 大河ドラマ館勤務



◀「どうする家康」
岡崎 大河ドラマ館
ホームページは
こちらから

NHKのテレビ番組大河ドラマは、1963年4月に放映された『花の生涯』からスタートしました。今年1月からの大河ドラマ『どうする家康』は62回目の作品ですので、なんと60年間続いているNHKの長寿番組であり、看板番組の一つでもあります。

第1回目の作品は江戸末期桜田門外の変で暗殺された井伊直弼とその家臣長野主膳の物語でした。その後もお年寄りから子供までみんなで楽しめる大型ドラマとして高い視聴率を維持してきました（時代の趨勢もあり、昨今はストーリーの内容等により視聴率にもかなりの差が見受けられます）。一方で大河ドラマ館は、大河ドラマの時代背景を深く知ることにより番組をより楽しんでもらいながら、舞台となった地域を多くの人に知ってもらう目的等をもって開設されてきました。しかし大河ドラマ放映と同時にスタートしたものではなく、1987年放映の『独眼竜政宗』以降からの開設と聞いています。

私は今回縁あって岡崎大河ドラマ館の館長という役職をいただき、ドラマ館オープン前から入場券の販売準備や営業等、そしてオープン後はその運営や管理の仕事を担当しています。私の前職は観光業界での仕事で、旅行業・ホテル業であわせて35年以上業務に従事してきました。ドラマ館の

仕事は2016年に放映された『真田丸』に続いて今回が2度目ですがこれまで観光業界で学んだ様々な経験がドラマ館の仕事にも大いに役立っています。

「どうする家康」岡崎 大河ドラマ館はご承知の通り「三河武士のやかた家康館」の建物を活用し、放送開始にあわせて展示内容をリニューアルし来年1月8日まで年中無休で営業します。

従来のドラマ館の広さ(約300㎡×400㎡)に比べ史実展示エリアも含め1000㎡以上となり広いスペースが確保されており展示内容も豊富です。1階には実際にドラマの中で使用された衣装や小道具などの展示、製作スタッフの紹介や登場人物の相關図、そして出演者の等身大LEDパネルが置かれている写真コーナー、地下には史実に基づいた展示物や「関ヶ原の合戦」を立体的に表したジオラマ等があり、大人気です。

また、1階出口付近の4Kシアターでは出演者のメッセージを含めオリジナル映像が楽しめます。大河ドラマ館は1月21日オープン以来早くも3か月が経過しました。その間、県内はもちろん全国から非常に多くの方々に来館いただき、5月には20万人を超えました。ドラマ館や家康公生誕の地を満喫いただけたと思っています。

また、番組後半の「家康ツアーズ」で紹介され

た公園内にある「家康公のからくり時計」の人気は高く、好天の週末には100名を超える人が時計台の周りに集まっています。能を舞う家康公の人形が登場すると拍手も起こり、一斉にスマホでの撮影が始まる様子は今や岡崎公園の観光スポットといっても過言ではありません。

真田丸のドラマ館も同様でしたが、幅広い年齢層の方々が来館しているのも大きな特長といえます。地元の幼稚園児から小・中学生、車いす利用の方やそのご家族、若いカップルなど多くの方にご来館いただいております。

今回の大河ドラマを通して、全国の多くの方々に伝統と文化が生き続ける家康公生誕の地・岡崎に興味を持っていただくと同時に、自分の故郷に対する思いが希薄になりがちな昨今、郷土の素晴らしさを再認識していただける良い機会になればと思っています。

これから夏休みに入りますが、今後も岡崎市内のみならず県内外から多くの方々にお越しいただき、ご満足していただけるようドラマ館スタッフ一同「いつも・笑顔で・やさしい・スタッフ」を合言葉に頑張る所存です。



教室の窓辺

大好きな三谷のために ぼくらができること

蒲郡市立三谷東小学校 教諭 小泉 辰十

本校の学区「三谷」のまちは、海と山に囲まれた観光地であり、温泉、300年以上続く伝統的な三谷祭、弘法大師像など、魅力的なところがたくさんあります。子どもたちもそれぞれ自分のお気に入りの場所があるほど三谷のまちが好きです。「三谷」を教材化することで、三谷のまちや人とのかわりを通して、さらに三谷のよいところを感じ、自分たちの住むまちを自慢に思っている。そして、地域の一員として、自分たちにできることに目を向けてほしい。そんな願いを込めて、5年総合的な学習の時間「おいでん三谷！ぼくらのまち、ステキ発見！」の単元を構想しました。

導入で、自分たちのおすすすめスポットを紹介し合う活動を行いました。黒板いっぱい、タブレットで撮ったおすすすめスポットの写真と、「大好き」という思いがあふれました。そんな子どもたちに、昔、観光客で賑わっていた三谷のまちの写真を提示すると、人の多さに着目し「今もステキは変わらないのに、なぜ人が少なくなったの？」と疑問を抱きました。原因を考え合う子どもたちに、「訪れる人が少なくなった三谷のこと

をどう思う？」と尋ねると、「今は人が少ないからもっと来てほしい」「人がたくさんいた昔みたいにしたい」など、なんとかしたいと考え始めました。そして、自分たちの大好きなまちだからこそ、「三谷を知らない人にステキを伝えたい！そのために、ぼくたちがもっと三谷について調べなくては！」という思いが生まれました。

夢中になってタブレットや観光パンフレット等の資料を使った調べ学習をすすめるうちに、友だちの調査結果を知りたいという声があがりました。そこで、調べたことを全体で共有する「調査報告会」を開きました。会を通して、新たな気づきや疑問が生まれ、「実際に現地に行つて確かめたい！」という意見が出されました。現地調査をすすめるとともに、さまざまな人との交流も計画しました。景色の美しさを再確認したり、地域の人の三谷祭に対する熱い思いを知ったり、旅館で働く人のお客さんを大切に思う気持ちに気づいたりしながら、三谷への愛着をさらに深めてきました。そして、「ぼくたちの力で三谷のまちを盛り上げたい」と実践への意欲が芽生えた子どもたちは、三谷おいでん大使として、「たくさんの人に、三谷に行つてみたいと思ってもらえるように、ぼくたちの力でPRしていこう！」を目標に、チームに分かれ、PR動画とリーフレットを作成しました。動画は「三河湾ネットワーク」を通してケーブルテレビで放映、リーフレットは市役所や蒲郡駅など7カ所に配置させていただきました。

これから大人になっても、三谷東小の子どもたちが三谷のまちに愛着をもち続け、三谷のまちを盛り上げるために行動していくことを信じています。



PR動画撮影に夢中になる子どもたち



ケーブルテレビで「三谷の魅力」を発信する子どもたち

教師となつて3年目の小泉教諭。初年度は、2年担任として、低学年指導におけるコミュニケーションの難しさを感じつつも、懸命に教職人生のスタートを切りました。そして今年度は、持ち上りの6年生を担任しています。

昨年度、5年生が地域とともにある学校づくりをめざした、総合的な学習「おいでん三谷！」の実践は、地域と密接につながり、子どもたちの「三谷LOVE」をさらに深め、令和6年度からコミュニケーションを開始する本校に大きな足跡を残しました。

頼まれると快く引き受け行動する素直さ、困ると自分からすぐに尋ねる謙虚さがあり、初の卒業学年担任として経験を積み、若手のリーダーとしての意識を高め、学校のリーダーへと育つことを期待しています。

(校長 松下 達)



愛知教育大学附属特別支援学校
(前岡崎市立竜美丘小学校)
教諭 加藤 雅也

他者との運動経験を通して、 見方・考え方を働かせる体育学習を目指して

一 はじめに

子どもたちは日々、精一杯体を動かしながら体育の授業に取り組んでいる。どの運動領域においても、個人で何度も練習に取り組み、運動技能を伸ばそうとする姿や、「マット遊びが楽しかった」など、運動の楽しさを味わう姿が多く見られた。これらの姿から、「他者とかかわりながら、体育の学びを深めていくこと」「体育の学びを深く認知し、見方・考え方を働かせること」で、子どもたちはさらに運動への興味・関心をもち、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を高めていくことができると考えた。

本実践を通して、他者とともに活動する中で、問題解決に向かったり、学びを深めていったりする姿を期待した。

二 一年次の研究

運動の特性にふれ、仲間と協働的に学びを深める中で、主体的に運動に取り組む児童の育成（六年 ボール運動（ちのこ型）テニスの実践を通して）

◇協働的に学びを深める姿

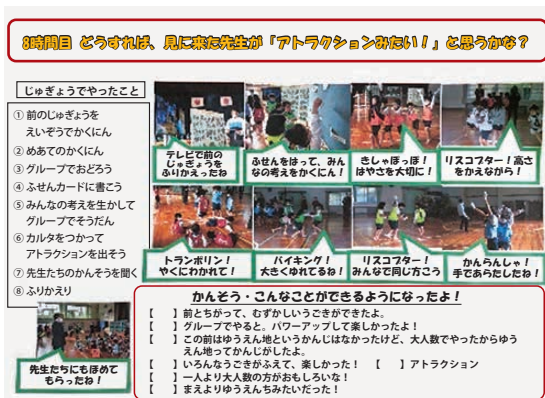
第六時では、序盤に二対二のゲームを行った。その後、「二対二のゲームで大切にしたい点」を意見としてまとめることにした。その時に新たな手だてとして付箋の活用を行った。これは、発問に対する自身の考えを記入した付

箋を、移動式黒板に貼るとともに意見を分類・集約していくものである。

児童Aは、様々な観点で付箋に意見を記入していたが、特に多く記入していた観点が「役割（ポジション）」であった。その後、児童Aは、ペアの児童と一緒に黄色の付箋（役割）を中心に参考になりそうな意見を探していた。その中で児童Aたちは、「前で返球する人と後ろで返球する人に分かれる」「常にペアでボイスヘルパーをして、どちらが打つか確認したり、打つ方向を教えたりする」の二つを参考にしていった。「なぜ、その意見に注目したのか」問いかけると、「お互いに指示し合えたらミスも減る」「前と後ろに分かれて、ペアの子がボールを遠くに打てるから後ろについて、ばくは前の方で空いているスペースを狙っていきたい」と答え、児童Aは、ペアの児童と約束事を設定することができた。第七時「二対二でペアの約束事を確認してゲームしよう」で児童Aたちは、前時に確認した約束事を意識して、ゲームを有利に進めることができた。



ペアで決めた約束事を意識して有利にゲームを進める児童Aたち



学びの足跡カード

えたり実感したりすることができると考えた。

第十七時「学んだことを生かして三つのせかいに出かけよう」では、授業の始めに、今までの学びの足跡カードを黒板に提示し、「今までどんなことができるようになったか」発問をした。児童Bは、カードを見つめた後、「体の全部を使って、大きく踊ることができた」と発言し、学んだことや身に付けた技能を認知する姿が見られた。また、「私でもいろんな踊りができるんだなってわかって、自信がついた」と発言し、表現遊びにおける特性や学んだことを認知できていたことが伺えた。

学ぶことは何かな」と学習課題を立て、一年生と六年生で試合する場の設定を手だてとして実施した。

発達段階が大きく違う一年生と六年生では、知識・運動面はもちろん、体育における価値観や認知していることは大きく変わってくる。そのような学年が同じ場で同じように授業をすることで、他者の姿から新たなことを認知したり、自分自身のよさを再認知したりすることができると考えた。



両担任で2学年の意見を集約



6年生の意見を参考にし、攻撃方法を工夫して点数を取る児童C

ことを生かし、「体全体を使う」ことや「踊りに変化をつける」ことを意識して踊ることができた。



体勢を上下にゆっくりと変化させて「チョウ」を踊る児童B

四 三年次の研究

他者との運動経験を通して、見方考え方を働かせる体育学習（一年 体操の運動遊び「アトラクション」の実践を通して）

◇他者や自分のよさを認知する姿

第六、七時に「六年生・一年生から

一年生は、「六年生は身長が高いから、低い姿勢で攻撃することを頑張った」「六年生は慎重だから、素早く攻撃してみたよ」「体を横向きにして、ステップしながら逃げるとよかった」など、六年生に勝つために行った様々な動きを発表することができた。

その後、ホワイトボードを裏返して、

互いの意見を確認する時間を取った。六年生の意見を目にした児童は、今までの思いがなかったような動きを認知することができた。その中でも、児童Cは、六年生の意見にあった「一年生をだますようにした」「一年生が油断をしているときに攻撃する」ことに着目しており、「ばくも姿勢を低くして守っているように見せかけてから攻撃する」という考えをもって試合に臨もうとしていた。

その後の試合では、多くの児童が共有した意見をもとに試合をしようとしていた。「相手の油断」という六年生の意見によさを感じた児童Cは、相手の動きを伺い、油断が見られた瞬間、素早い動きで相手に攻撃して点数を取ることができた。

下段の資料は、六年生が授業後に記入した振り返りカードである。下線部のように、一年生の姿から、試合中の動きや態度面で様々なことを学んでいることがわかった。

五 おわりに

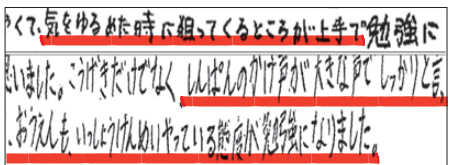
三年間の研究を通して、他者とかかわる中で学びを深めたり認知したりするとともに、見方・考え方を働かせる児童の姿を随所で確認することができた。今後は、より一層「子どもでありき」の理念を大切に、子どもたちの姿を出発点とした授業実践に邁進していきたい。

三 二年次の研究

踊ることの楽しさや特性にふれる中で、技能を高めることができる体育学習（一年 表現リズム遊び）の実践を通して）

◇運動の特性や学びを認知する姿

第二時のリズム遊びの授業で、楽しく踊る児童Bの姿が見られた。しかし、振り返りカードには、「うが楽しかった」としか書かれておらず、本時で何を学んだのか、どんな技能が身に付いたのかが不明確であった。そこで、「表現リズム遊び」の特性や学びを認知できるよう、「学びの足跡カード」を活用した。これは、授業で学んだことや児童の活動の様子を写真や文にして簡潔にまとめたものである。授業の学びを視覚的にまとめることで、表現リズム遊びの特性や学びを客観的に捉



異学年対決後の6年生の振り返りカード
(一部抜粋)

「みんなの安全」を活用した授業
命を守る

豊川市立一宮南部小学校 教頭

佐野 高之



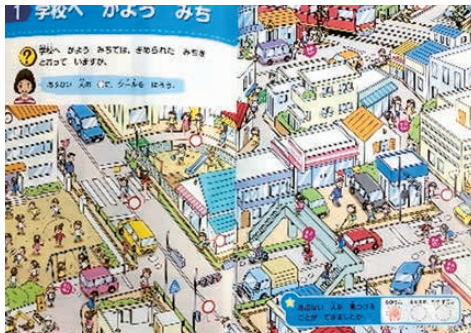
安全な学校生活を送る環境を整えるとともに、安全に関わる資質・能力を育むため、本校では、刊行物「みんなの安全」を授業や日常生活で活用している。絵図でさまざまな危険な場面、事故データなども紹介されており、子どもたちの理解も具体的なイメージを伴って深まっていく。また、情報を活用し、思考・判断を促す発問が多くあり、「どう行動したらよいか」を考え、実践できるように工夫もされている。

入学時の安全指導に活用

入学して3日目から1年生だけの下校が始まる。また、4月末には避難訓練も行われる。

交通安全

「学校へ かよう みち」や「どうろのあるきかた」の学習では、「みんなの安全」巻頭にとじこんである『あぶないシール』を、絵図中の危ない行動をしている子どもを見つけて貼る活動を取り入れた。横断歩道で遊ぶ子、道いっぱいに



危険をシールで確認

広がって歩く子を見つけて、「これは危ない」とつぶやきながらシールを貼っていた。その日以降、「1列で歩かないといけないよね」、「横断歩道を渡るときは手を挙げよう」など、自分たちで確認する姿が見られるようになった。交通安全に対する意識が芽生え始めた。

避難訓練

「みんなの安全」は、わかりやすいイラストや絵画、子どもや教師の吹き出しがあり、実際の場面を想定して考えることができる。火災の避難訓練の事前指導で、1年生に「みんなの安全」の絵図を見せると、直感的に煙の危険性に目を向けた。訓練当日、姿勢を低くし、鼻や口をハンカチで押さえて避難する姿が見られた。火だけでなく、煙から逃げることの重要性を理解し、行動することができた。

交通安全教室に活用

本校では、毎年6月、市内の交通指導員の方々を招き、3年生を対象に交通安全教室を実施している。「みんなの安全」には、交通事故データの記載があり、当日の朝の会で県内の交通事故死者数（令和2年154名）を確認した。本校の児童数とほぼ同数という事実に驚いた子どもたちは、「自分の命は自分で守る」を合言葉に、後半の実技に臨んだ。

また、自転車点検表が載っている「みんなの安全」を持ち帰り、親子で定期的実践するよう依頼した。保護者の交通安全に対する意識も高まり、家庭と連携した事故の未然防止につながった。

犯罪から身を守る安全指導に活用

「みんなの安全」には、自分で考え、判断を促す発問が多々掲載されている。併せて、紙面には2次元コードが付いており、タブレット端末で資料を見ることが出来る。地域での犯罪被害に対する安全指導（3年）で、「犯罪から身を守るためにはどうすればよいか」という発問に、子どもたちは、「知らない人についていけない」、「大声を出す」などの考えを発表した。また、前学年で学習した合言葉「いかのおすし」を口にする子もいた。そこで、「みんなの安全」のウェブサイトで、「いかのおすし」を閲覧できることを紹介すると、自らタブレット端末を準備し、動画を見始め、自分の目と耳で犯罪被害防止の方法を確認した。

朝の会の感染症防止のための手洗い指導（2年）に、ウェブサイトの手洗い動画を見せたり、帰りの会の交通安全指導（2年）で、フローチャート式の安全チェックをしたりするなど、授業だけでなく、日々の生活の中で、「みんなの安全」を活用し、子どもたちの理解を深めたり実践力を高めたりするよう心がけている。こうした日々の言葉かけや指導が、授業や行事で学んだ内容を定着させ、子どもたちの安全に関わる資質・能力を育んでいる。



いかのおすしをタブレット端末で確認

令和5年度学校教育ボランティア助成グループ一覧

読書活動グループ助成対象団体

（地区）	（団体の名称）	（代表者）	（主な活動場所）
附属	愛知教育大学附属岡崎小学校 読み聞かせクラブ	角田 円	愛知教育大学附属岡崎小学校
岡崎	さらさらスマイル	小林 香織	山中小学校
岡崎	よみきかせ「さくらの会」	河合 史子	本宿小学校
岡崎	生平小学校よみきかせボランティア「さえすり」	山岡 由美	生平小学校
岡崎	みきたの会	太田 順子	上地小学校
碧南	ばんだこぼんだ	杉浦 陽子	棚尾小学校
刈谷	ブックマーガレット	西村 玲加	平成小学校
刈谷	こんにち話・図書館ボランティア	棚橋希代子	双葉小学校
豊田	森の本箱	太田 文香	童子山小学校
豊田	ドリームクラブ	山本江里奈	元城小学校
豊田	読み聞かせボランティア「ひだまり」	太田ひろこ	市木小学校
豊田	読み語りグループかたりーずドリーム	井上 明子	五ヶ丘東小学校
豊田	則定小学校読み聞かせグループ ハグまーま	柴田 真弓	則定小学校
豊田	竹の子	青木美代子	稲武小学校
安城	安城北部小学校 読み聞かせボランティア	塚本 幸子	安城北部小学校
安城	祥南小図書館係ボランティア	三宅 隆之	祥南小学校
安城	おはなしレストラン	浮森 和美	篠目中学校
西尾	吉田小図書館ボランティア	新井 佳子	吉田小学校
西尾	西尾市立白浜小学校 図書ボランティア	岡田 恵子	白浜小学校
西尾	福地中学校図書ボランティア	石川ともみ	福地中学校
知立	知立市立知立西小学校 読書ボランティア	栗田 玲子	知立西小学校
高浜	読み聞かせボランティア「話・輪・和」の会	新実 貴子	吉浜小学校
みよし	読み聞かせボランティアグループ「童夢」	額瀬美奈子	北中学校
幸田	読み聞かせグループ「よせなべ」	長谷川三重子	幸田小学校
豊橋	天伯読み聞かせの会	村田加代子	天伯小学校
豊橋	富士見小学校学校図書館ボランティア	木村 恵菜	富士見小学校
豊橋	ぐるんぱ	安藤 理恵	石巻小学校
豊橋	豊橋市立二川南小学校 図書館ボランティア	大西あゆみ	二川南小学校
豊川	おはなしたんけんたい	本多 宏枝	東部小学校
豊川	テツテケむしむし	吉岡 万紀	平尾小学校

（地区）	（団体の名称）	（代表者）	（主な活動場所）
豊川	読み聞かせサークル「ともだちや」	平居 沙織	小坂井東小学校
蒲郡	塩津小読み聞かせ隊	鎌田 裕子	塩津小学校
蒲郡	中央小読み聞かせ隊	元場みはる	中央小学校
新城市	ほんよみたい	尾崎 由佳	中央小学校
新城市	読み聞かせボランティア「やまびこ」	大竹 理絵	新城市小学校
岡崎	おやじ会OYGU	大 中 秀香	黄柳川小学校
岡崎	鷺塚小学校スクールガード	廣田あかり	清田小学校
碧南	スクールサポートステーション（3S）	古森 礼子	泉小学校
刈谷	ちよボラ	後藤加奈子	田口小学校
刈谷	環境整備作業ボランティア	高森 寛子	名倉小学校
豊田	東山中学校 図書ボランティア		
豊田	幡豆つ子見守り隊		
安城	来迎寺小 おやじの会		
知立	来迎寺小 おやじの会		
高浜	子育て応援団pumpkinチャイルド		
みよし	なんでもボランティア		
幸田	生花ボランティア		
豊橋	天伯図書館ボランティア		
豊橋	ラビッツ		
豊川	東中おやじの会		
蒲郡	ガイドヘルプ暁の星		
新城市	田んぼの師匠		
田原	機織りクラブ		
北設楽	田口小安心・安全グループ		

成瀬 麻美	愛知教育大学附属特別支援学校
本多 潔	常磐中学校
岩光 彦雄	新香山中学校
藤浦 隆吉	鷺塚小学校通学路
平野紀久子	小垣江小学校
曾我 千明	幸海小学校
水野 憲一	御作小学校
山崎 久紅	東山中学校
西岡 賢一	幡豆小学校通学路
小川 博史	来迎寺小学校
古橋 知美	高浜中学校
田口 佑美	黒笹小学校
小野チエ子	幸田中学校
河合喜美江	天伯小学校
西浦 芳晴	富士見小学校
新田 哲也	東部中学校
山本なおみ	塩津中学校
山内 康平	東郷東小学校
日々野明美	亀山小学校
蟹 栄二	田口小学校通学路

読書活動以外のグループ助成対象団体

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研 究 主 題	研究期間	指定等	地 区	学校名
5.10.26 (木)	国語・算数 学級活動（特）	学びをつなぐ －思いをつなぐ、人をつなぐ、未来へつなぐICTの活用－	4～5	市教委	田 原	田原南部 小学校
5.10.27 (金)	算数・理科 体育・外国語	力強く未来を創造していく四郷っ子の育成 ～教科担任制による学習と業務改善を通して～	4～7	市教委	豊 田	四郷小学校
5.10.27 (金)	全教科	『個の学びを充実させ、仲間とともに、学びを深める子の育成』 ～振り返りを意識した授業づくりを通して～	4～5	市教委	安 城	今池小学校
5.10.27 (金)	全教科	「I LOVE Me！」 ～自己有用感を生む教育活動の創造～	4～5	県金融広報 委員会・ 市教委	みよし	北部小学校
5.11. 1 (水)	学習指導	協働的な学習活動によって、自己の見方・考え方を 深める子どもの育成 ～「ひとり調べ」と「かかわり合い」を大切にした 問題解決的な学習を通して～	3～5	市教委	豊 橋	牟呂小学校
5.11. 1 (水)	全教科	自立的に生きようとする六北っ子の育成 ～自ら学び、仲間と学び合う「よつば学習」を通して～	3～5	市教委	岡 崎	六ツ美北部 小学校
5.11. 9 (木)	生活科 総合的な学習の 時間	『仲間と共に地域の未来を切り拓く東部っ子の育成』 ～「なぜ？」を見いだし「もっと！」があふれる 東部小探究サイクルを軸として～	4～5	市教委	安 城	安城東部 小学校
5.11.10 (金)	道徳	『自己を見つめ、他者とともによりよい生き方を求 める児童の育成』 ～主体的に学び、仲間と議論し、納得解を生み出す 授業をめざして～	4～5	中部道研	安 城	安城南部 小学校
5.11.14 (火)	全教科	たくましい体と思いやりの心をもち、進んで活動に 取り組む児童の育成	4～5	市教委	刈 谷	かりがね 小学校

〈中学校〉

発表年月日	研究領域	研 究 主 題	研究期間	指定等	地 区	学校名
5. 9.13 (水)	全教科	ESDの6つの視点で働きかけ、持続可能な社会を創 ろうとする生徒の育成 ～総合的な学習の時間を中心にした自分事としての学び を実現するESDとGIGAスクール構想のGOODMIX～	4～5	自 主	岡 崎	新香山 中学校
5.10.11 (水)	全教科	仲間と関わり、「探究」していく生徒 ～「願い・疑問の芽生え」「習得」「活用」を明確に した授業を通して～	3～5	市教委	刈 谷	朝日中学校
5.10.19 (木)	全教科	主体的に今を生きる生徒の育成 ～「もっと知りたい・聴きたい・話したい」が表出 する授業への挑戦～	3～5	市教委	西 尾	吉良中学校
5.10.23 (月)	全教科	『自らの可能性を発揮し、主体的に取り組む生徒の育成』 ～「つながり」を大切にした学校づくり～	4～5	市教委	安 城	安城南 中学校
5.10.25 (水)	学習指導	「本気」で考え・語る、自らの力で時代を拓くことの できる生徒の育成 ～「この子」の学びをいかした、問題解決的な学習～	3～5	市教委	豊 橋	石巻中学校
5.10.25 (水)	全教科	「自立的に生きるための資質・能力を育む教育の創造」 ～学び方と学ぶ内容を充実させたチーム学習を通して～	3～5	市教委	岡 崎	北中学校
5.10.25 (水)	全教科	多文化共生社会を生き抜く生徒の育成 ～多様なルーツをもつ生徒がかかわり合う授業作り を通して～	4～5	市教委	知 立	知立南 中学校
5.10.26 (木)	学習指導	私が輝く学校　－仲間とともに　先生とともに－	3～5	市教委	豊 川	南部中学校
5.11. 2 (木)	全教科 特別支援教育	ともに考え　ともに伸びる ～自己の学びを自覚できる学習評価の充実～	2～5	市教委	蒲 郡	塩津中学校

三河の教育研究

令和5年度 研究発表校一覧

令和5年5月現在

〈附属学校〉

発表年月日	研究領域	研 究 主 題 等	研究期間	学校名
5. 6.20 (火)	教 科	第52回生活教育研究協議会 「躍動」（3年次）	3～7	附属岡崎中学校
5.11.10 (金)	教 科	第54回特別支援教育研究協議会 「学びを生活に生かす子どもの姿を求めて」（4年次）	2～6	附属特別支援学校
5.11.16 (木) 5.11.17 (金)	教 科	第74回生活教育研究協議会 「豊かに生きる」（6年次）	30～6	附属岡崎小学校

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研 究 主 題	研究期間	指定等	地 区	学校名
5.10.11 (水)	生活科・社会科 総合的な学習 保健教育	いきいきと動き出す子 ～地域とつながる授業づくりを通して～	3～5	市教委	蒲 郡	蒲郡西部 小学校
5.10.11 (水)	生活科・社会科 総合的な学習 特別支援教育	「夢中になって学び続ける子」をめざして －形北学びを中心にした授業づくり－	3～5	市教委	蒲 郡	形原北 小学校
5.10.18 (水)	学習指導 (ICT活用推進)	自らかかわり、自己の見方・考え方を深める羽根井っ子の育成 ～ICT機器の特性を生かした「羽根井モデル」の実 践を通して～	3～5	市教委	豊 橋	羽根井 小学校
5.10.18 (水)	国語科	生きて働く言語能力を育む国語教育の創造 ～「創造・感受・交流」の力を高める国語科授業を 通して～	3～5	市教委	岡 崎	矢作北 小学校
5.10.19 (木)	国語	読むことに夢中になる西野町っ子の育成 ～関わり方を工夫する中で、読む力を身につける国 語の授業づくり～	3～5	市教委	西 尾	西野町 小学校
5.10.19 (木)	算数	自立的・協働的に課題を解決できる児童の育成	3～5	市教委	西 尾	平坂小学校
5.10.20 (金)	全教科	地域で学び、友と高め合う大蔵っ子の育成 －対話から深い学びを生み出す学習づくり－	3～5	市教委	豊 田	大蔵小学校
5.10.24 (火)	総合的な学習 生活科 特別の教科道徳	『豊かな心をもち、他者とともによりよく生きる日小っ子の育成』 ～家庭・地域社会との連携を通して～	3～5	市教委	碧 南	日進小学校
5.10.25 (水)	教科指導	学ぶ喜びを味わう子 －課題解決的な単元を軸に、各教科の「見方・考え方」 を働かせ、対話する・話し合う授業を通して－	4～5	市教委	刈 谷	富士松南 小学校
5.10.26 (木)	教科指導	失敗をおそれず挑戦し続ける子の育成をめざして ～あたたかい人間関係づくりとICT機器の活用～	3～5	市教委	豊 川	牛久保 小学校
5.10.26 (木)	教科指導	自分で進む　みんなで進む ～「決める」「決め直す」を大切にした授業を通して～	3～5	市教委	豊 川	一宮南部 小学校
5.10.26 (木)	教科指導	本気で学ぶ授業《子どもと教師と》 ～自ら学ぶことや共に学ぶことに喜びを感じる子の育成～	3～5	市教委	豊 川	御津南部 小学校
5.10.26 (木)	全教科	問いが生まれ、主体的に学び合う子どもを育てる 授業の創造	3～5	市教委	新 城	千郷小学校
5.10.26 (木)	各教科 総合的な学習	主体的で協働的な授業のあり方を求めて ～学びに向かう力を育てる～	3～5	市教委	新 城	鳳来寺 小学校
5.10.26 (木)	学習指導	深い学びの実現 ～新たな考えを再構築し表現できる児童の育成～	3～5	市教委	田 原	伊良湖岬 小学校

デジタル採点支援システム 導入に向けた概要説明会

全小中学校対象

先生を助ける
優れもの

登場!

開催日 令和5年8月28日(月)

小学校向け／10:00～11:00(東三河地区)
小学校向け／11:00～12:00(西三河地区)
中学校向け／13:30～14:30
※同時アクセス300のため、3グループに分けて実施します。

内 容 「デジタル採点支援システム」について

- ・システム概要
- ・「学習」類、「演習」類における採点支援の流れ(概要)
- ・実証研究校における活用紹介
- ・導入スケジュール

利用システム Zoom Meeting

※参加IDおよびパスワードは
別途学校代表メールにて
8月25日(金)までに連絡します。

※今回は概要説明です。「インストール
説明会」「操作説明会」については、
それぞれ12月中旬と1月下旬を予定
しています。



令和5年度 業務組織

※()内は担当地区

- 顧問 岩月 慎白
- 理事長 平井 敦
- 副理事長 鈴木 佳樹
- 常務理事 水藤 彰啓 (蒲郡)
谷中 智典 (豊橋)
- 事務長 (兼 総務部長)
稲垣 良治 (西尾・附属)
- 事務次長 (兼 業務部長)
山本 満夫 (岡崎)
- 総務部 岡田 守 (幸田・新城)
- 編集部 天野 明典 (豊田)
柵木 智幸 (安城)
- ICT部 水鳥 勝久 (刈谷)
名倉 嘉章 (碧南・高浜)
- 業務部 保科 克之 (知立・みよし)
本多麻紀子
深津 理絵
- 経理部 浅井 英雄 (豊川)
松平 貴圭 (田原・北設)
牧 富代
- 事務補佐 鳥居 直美



春・夏の部 最優秀作品

あなたの
くらし・まつり・ふるさを
描いてみませんか?



秋・冬の部 最優秀作品

応募期間

令和5年
春・夏の部 8月24日(木) ▶ 9月7日(木)

令和5年
秋・冬の部 12月18日(月) ▶ 令和6年
1月10日(水)
※土・日・祝日を除く

詳しくは
こちらから



みかわ さい 発見

絵
画
コン
ク
ル



刊行物
使用報告・注文締切

◇使用報告／夏休み日誌
7月4日(火)～6日(木)

算数の友(下)
9月5日(火)～7日(木)

□注文締切／冬休み日誌・かきぞめ手本
9月12日(火)～14日(木)



令和5年度
団体研究助成

6月16日(金)に審査委員会を開催し、
次の5団体に交付が決定しました。

- ・三河小中学校長会
- ・三河教育研究会
- ・三河教頭会
- ・愛知県へき地教育研究協議会
- ・生活・特別支援教育研究協議会

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

教育と文化 令和5年7月1日号
No.132

発行／公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1

TEL 0564-51-4819
https://www.bunsin.org

